

# 大使の横顔

vol.4

市のPRを行っている奥州大使の皆さんを紹介するこのコーナー。4回目は東京小牧バレエ団の団長・菊池宗さんです。

レトロに乗って  
贈る新風

「これまでは小牧の作品を継続することしか頭になかった」。これまでの公演を振り返る菊池宗団長。江刺出身のバレエダンサー小牧正英は日本バレエの草分け的存在であり、代表作「火の鳥」は

手塚治虫に漫画「火の鳥」を執筆させる契機となりました。バレエ団ではその小牧の振り付けを続けてきましたが、菊池団長には、時代に合わないと感じる部分もありました。そこで昨年12月の新国立劇場「火の鳥」公演では、小牧の振り付けに今の技術を取り入れたところ、高い評価を獲得

菊池団長は「小牧の作った基はいい。これに今風の枝を付けていきたい」と、継承と変化について考えています。

### 小牧に学んだこと

4歳からバレエを始めた菊池団長ですが、小牧の指導は中学生から。「特別扱いを避けたと思う」と菊池団長。技術やリーダーとしての帝王学のほか、郷土への思いも学びました。「岩谷堂に行った時、初めてなのに何でも知っていると地元の人に驚かれた。小牧から聞いていたんですよ」

### 70周年目の新生

東京小牧バレエ団はこしで誕生70周年を迎えます。節目の年を一つの区切りと捉えながらも「3月8日に団員オーディションをする。新しい風を取り入れて新生小牧バレエ団としてスタートしたい」と菊池団長は意気込みます。最後に、活動を支えてくれる奥州市民に対し「公演のたび見に来てくれてありがたい。感謝、感謝、感謝しかない」とこれまでのお礼と共に、変わらぬ応援を願いました。



菊池宗さん

きくち・そう  
昭和20年東京都生まれ  
東京小牧バレエ団団長  
本市出身のバレエダンサー小牧正英の甥。国内外でバレエダンサーとして活躍後、同バレエ団3代目団長に就任。平成14年に創作バレエ「マダレナ」で世界地域国際平和賞。27年度外務大臣表彰



千年以上の歴史を誇る東奥の奇祭——  
黒石寺蘇民祭



# 奥州冬祭り

本市の冬を彩る二つの祭り、第27回全日本農はだでのつどいが2月13日、黒石寺蘇民祭が14日から翌早曉にかけて、それぞれ開催されました。祭りの熱気が天に伝わったのか、例年にない暖かさとなった両祭り。雪解けの泥に足を取られながらも参加者は、五穀豊穡、無病息災を祈願し、祭りを盛り上げました。

【黒石寺蘇民祭】1 氣勢を上げる男衆は煙と火の粉に包まれていく(柴燈木登) 2 燃え盛る木を手にし扱いが行われる 3 暗闇に浮かぶ微かな角燈の灯り 4 瑠璃壺川の水を浴び身を清める(裸参り)  
【農はだでのつどい】5 福袋を豊作坂の上まで引き切り、喜びに沸く厄年連 6 日本一の大国でつきあげた餅は来場者に振る舞われた 7 来場者が持ち寄った縄が大縄に編み上げられた 8 区内の小学生による縄なしチャンピオン決定戦 9 早乙女姿の大畑平庭田植保存会による庭田植の再現  
【背景】冬花火が祭りの終わりを告げた



いさわのわら文化を今に伝える——  
第27回全日本農はだでのつどい



— こんなことも聞いてみた！

Q. 小牧正英氏はどんな人でしたか？

Q. 奥州市についてどう思いますか？



天才でした。  
伝説的、世界的な人にも会っているが、僕の中では5本の指に入る天才。今でも迷ったときの道しるべです。ただすごい怖かったですよ。

自分のルーツ。  
自分が充電しに行くところ。雪を漕いで墓参りすると、パワーをもらって帰ってくるができる。頑張らなきゃと闘争心が出ます。

※広報掲載に合わせて奥州大使の皆さんの動画を公開予定。みんなで「奥州市」をチャンネル登録しよう！